

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度(平成31年度)	科目名	サウンドシステム2	
科目基礎情報					
開設学科	音響芸術科	コース名	全専攻	開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位	授業形態	講義		
教科書/教材	授業内で資料プリントを配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	三好・山崎	実務経験の有無・職種	有・レコーディングエンジニア		
学習目的					
<p>日常に溢れている音という現象について、物理的・経験的に理解する事を目的とする。近年のレコーディングはコンピュータによるDAW化によって手軽なものとなり、簡単な操作をすれば何かしらの音の変化を起こすことが可能となった。しかし、闇雲に音をいじる事は完成時に取り返しの付かない結果を招くこともある。目的とする音作りへの到達は音の現象を正しく理解し、効率的にパラメーターをいじることによって速度アップが可能となる。そのための音響基礎の理解を目的とする。</p>					
到達目標					
<p>後期の初頭は前期で理解したことを応用しながら音波の実験を通して体験へと繋げる。また音響機器についても多様化したものを学び、音作りへの実践的な方法についても学んでいく。現象だけではなく、音に関する単位や様々な基本的な数値についてもしっかりと記憶し、プロフェッショナル・エンジニアとしての知識を豊富にしていく。近年のデジタル化により音の記録フォーマットも増えているので、これからの新しい技術に対応していくためにもアナログ的な基本技術も理解していくことを目標とする。</p>					
教育方法等					
授業概要	基本はプリント資料を適時配布し、自分で完成させるワークタイプのプリントを配布することもある。講義形式の授業である。前回までの各項目を理解した上で次項目へ繋がるため、復習も随時行いながら進行する。復習や仮説においては各自の発言の機会もあるので、積極的な参加が望ましい。映像、音響資料も多用する。				
注意点	音を扱うプロとしてノイズと捉えられる授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。 公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。 授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	40%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	30%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画(1回~15回)					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	音の表現	音による科学実験の過去解説の確認			
2回	音の科学実準備	グループをつくり実験項目の選定、実験発表の準備ができる。			
3回	音の科学実準備発表	各班の発表実施。			
4回	いい音とは?・パッチベイ	様々なノイズの種類、測定への応用。パッチベイの仕組みがわかる。			
5回	エフェクター1	コンプレッサー・リミッター、エキスパンダー・ゲートが使える。			
6回	エフェクター2	ノイズリダクション系の理解・イコライザーが使える。			
7回	レコードの取り扱い	レコードの取り扱い、フォノイコライザーについてわかる。			
8回	エフェクター3	リバープ、エコーの種類がわかる。			
9回	エフェクター4	歪み系、モジュレーション系エフェクターの仕組みがわかる。			
10回	エフェクター5	その他のエフェクターの種類がわかる。			
11回	ミキシングバランス	音量、音質、定位についてわかる。			
12回	楽器の収録1	アコースティックギター、エレキギター、エレキベースの収録ができる。			
13回	楽器の収録2	ドラム、ピアノなどの収録ができる。			
14回	シンセサイザーとMIDI	シンセサイザーとMIDIの誕生についてわかる。			
15回	前期まとめ	全体の確認と頭のなかで関連項目のリンクをさせ、音響やエフェクターについてわかる。			